『フォーラム接点』実践報告　③

～新幹線開業後の金沢市街地中心部で少子高齢化が進むまちなか公民館の役割～

金沢市松ヶ枝公民館

1．地区の概要

松ヶ枝地区は、加賀百万石の中心であった金沢城の面影を漂わせています。初代藩主前田利家をまつる尾山神社や、朱塗りの社殿で知られる「北陸の日光」と呼ばれた尾崎神社などが繁華街の喧騒を離れた厳かな雰囲気を漂わせています。そして金沢城と尾山神社を結ぶ鼠多門も完成し、金沢観光の要所になりました。また約３００年前からの伝統を誇る近江町市場も、金沢市民の台所から観光の目玉に変遷しつつあります。

国道１５７号線が貫く中央の区域は、以前は北陸経済の中心と言える金融・ビジネス街でしたが、北陸新幹線開業後は空前のホテル建設ラッシュとなり３棟だったホテルが現在は15棟にまで増え、北陸観光の拠点となっています。

一方、大通りから一歩路地に入ると昔ながらの住宅街が残っていますが住民の構成は様変わりしました。子供の数は平成15年度で１５０人余りでしたが、昨年で１２１人と、マンションが増えてやや上向きの時期もありましたが、緩やかな下降線をたどっています。また65歳以上の高齢化率は、平成30年度調べで金沢市内第３位、独居老人の割合は高齢者全体の約35％を占めています。

以上のように、まちなかの賑わい創出の拠点となりつつある松ヶ枝地区ですが、少子高齢化は確実に進んでいます。

2．公民館の概要

名　　称　金沢市松ヶ枝公民館
所 在 地　金沢市高岡町７番23号
建物構造
(1)竣　　工　平成元年３月
(2)敷地面積　２１７・４５９㎡
(3)建物面積　４５８・００８㎡
(4)建物構造　鉄筋コンクリート造陸屋根３階建て
職　　員　館　長１名（非常勤）
　　主　事１名（常　勤）
　　主事補１名（常　勤）

旧松ヶ枝町小学校区域の公民館として、昭和27年に金沢市内の公民館とともに誕生しました。まちなかの少子化が進み、昭和62年３月に松ヶ枝町小学校が閉校となり、芳斎、長土塀、長町とともに中央小学校校区に属することになりました。現在の公民館は平成元年３月に竣工され地域の人々の交流の核となっています。

3．特色ある公民館活動

公民館のキャッチフレーズは「老若のふれあい深む公民館」です。世代を超えての交流ができる公民館をめざし、地域の諸団体・組織との連携を常に心がけて、それぞれの抱える年代、条件に配慮した行事となるように企画しています。

三大行事の運動会、文化祭、成人式のほか８月に行われる「まつがえ子ども夏祭り」では公民館各部（児童部・青年部・女性生活部・体育部・高齢者部）や地域社会福祉協議会や民生委員、防犯委員等各種団体の協力のもと、親子連れだけでなく世代間交流の場として多くの方が協力し、楽しめるお祭りとして定着しています。

また、体育事業の一環として高齢者も気軽に参加できる松ヶ枝公民館独自の「歩こう会」は、昭和46年に始まり、夏場と冬場を除き年7回、48年間に亘る活動は現在に至っています。金沢市での高齢化率第3位の松ヶ枝地区にあって、高齢者でも誰でも気負いなく参加できるよう、目的地を月報でお知らせして、行きたい方はどなたでもといったスタンスで行っています。しかし近隣の観光地や名所を巡るだけではマンネリ化しつつあり、参加者減少がみられました。そこで平成24年から特別回を設け、地域をもっと知りたいとの想いで、歴史や名所旧跡を掘り下げて巡る「いんぎらぁっとウォーキング」を始めました。第1回目は「金沢・街なか8社巡り」以降は「金沢城惣構跡を辿る」「大野庄用水取水口～鞍月用水口探訪」「旧北国街道みて歩き」「たかおか道しるべ　高岡開祖　前田利長公の足跡を辿る」など、地域再発見を軸として「見て」「知って」「学んで」を企画したことで参加者も3割強増えました。

緑と花のセミナーも昭和50年から始まって常時30人強の方々が参加しています。花と緑にあふれ、景観も人の心も潤いのある温かく美しい地区づくりを目指しています。昨年は年5回総勢165名もの方々が参加されました。

4．活動の成果と今後の課題

新しい試みの「いんぎらぁっとウォーキング」は、参加者増の効果は得られましたが年齢層に偏りがありました。

現状の公民館は、3層の年齢層にブランクが発生しています。一つは20歳代、そして40歳前後、もう一つは高齢者と呼ばれるには少々若い65歳前後の前期高齢者です。20歳代の公民館離れは以前から始まっていましたが、児童部で子供たちのお世話をした30歳代・40歳代の育成委員の方々も、子供の成長とともに公民館から縁遠くなってしまい、せっかく子供たちと地域活動に参加した流れが断ち切られてしまうのです。一方65歳前後の前期高齢者は、働き方改革での就労促進と定年延長などの結果、地域デビューが遅くなっています。また活動的な方は定年後にはスポーツジムや地域の文化センターなどで自由な時間を過ごしていて公民館への興味は薄いようです。

そこで先ず若い世代を呼び込もうと、平成27年度より30歳代から50歳代で組織された青年部を設置しました。お父さんお母さんを育成委員から青年部へ繋いでいこうという趣旨です。また前期高齢者を呼び込むために、既存の「高齢者部」を活動的なイメージの「シニア部」に改名し事業を見直しました。

今後の課題は、青年部やシニア部と協力し、地区社会福祉協議会や町会連合会と連携しての幅広い年齢層の交流ができる環境づくりを推進し、特に少子高齢化が進むまちなか公民館として、子供と高齢者が交流できる事業を増やすことです。

しかし現状のコロナ禍では、公民館行事自体が制約され、高齢者と子供達の交流も難しい状態が続いています。コロナ終息後に人々の暮らし方は変わってくるのかもしれませんが、公民館が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の場であることに変わりはなく、そのなかで地域づくりの場としての役割を果たしていきたいものです。